

〔平成17年度 普及に移す技術〕

〔普及に移す技術名〕 反射シートと透明樹脂せいろを用いたウメの省力天日干し法

〔要約〕 高品質の一次加工品（塩漬け梅）を省力的に乾燥仕上げる方法として、透明樹脂せいろを用い、その下方地表面に太陽光を反射するシートを敷設した状態で天日干しを行うと、干し上がりの果皮色が表裏均一に仕上がりに、裏返しの作業が省力できる。

〔キ-ワ-ド〕 ウメ、一次加工、透明樹脂せいろ、反射シート、軽労働省力化

〔担当〕 福井園試・果樹研究グループ

〔連絡先〕 電話 0770-32-0009、電子メール [enshi@ain.pref.fukui.lg.jp](mailto:enshi@ain.pref.fukui.lg.jp)

〔分類〕 普及

〔背景・ねらい〕

近年、青ウメの一般消費需要の停滞により出荷形態が一次加工品にシフトしている。栽培農家は青ウメと一次加工品の両方を生産しており、一次加工の作業の中では、最も多くの時間を要する天日干し作業の軽労働省力化が求められている。そこで、透明樹脂せいろと反射シートを併用する方法で天日干しの仕上がりを検討する。

〔技術の内容・特徴〕

1. 透明樹脂せいろを用い、その下方地表面に太陽光を反射するシートを敷設した状態で天日干しを行う。反射シートは透明樹脂せいろを配置する範囲の地表面に広げ、収穫コンテナを2段重ねて、反射シートと透明樹脂せいろとの空間を開ける。ビニールハウス内の乾燥では、仕上がりの果実品質を劣化させないために、温度60℃を上回らないように換気する（表1、図1）。
2. 天日干し後の果皮表面の色は、露地でもビニールハウス乾燥でも、透明樹脂せいろとアルミの真空蒸着シートを敷設する方法で、果実の反転作業無しで果実の表側と裏側が均一に着色し青味も残らない。白色不織布の敷設では、果実裏側に青味は残らないが、果実の表側と裏側の果皮色がやや異なる。従来のプラスチックせいろでは、果実の反転作業無しの場合、果実の表側と裏側で果皮色が異なり、果実裏側に青みが残る（表2）。
3. 一次加工の果肉水分は64%～67%に仕上げる。この場合、Brix糖度計を用いて干し上がりの水分を判定することができる。
4. アルミの真空蒸着シートと透明樹脂せいろを併用した天日干し法は、果実表裏間で果皮色が揃い、青ウメ1tにつき2人組み作業で2.5時間以上かかる果実の裏返し作業が省力できる。

〔技術の活用面・留意点〕

1. アルミの真空蒸着シートと透明樹脂せいろを含めた経費は、従来のプラスチックせいろのみに比べて1.8倍と高い。
2. 反射シートの回収時に汚れをよく水洗いすることで複数年の使用が可能となり、コストが低減できる。

〔 具体的データ 〕

表 1 天日干し期間の気象条件

乾燥期間	最高 気温( )	平均 風速(m/s)	降水 量(mm)	日照 時間	ハウス最高 温度( )
7/26～7/30	33.7	1.0	2	28.7	47.3

表 2 天日干し後の果皮表面の色、果肉水分

	せいろ	反射シート	表側果皮色(和名)	裏側果皮色(和名)	青味	果肉水分(%)
露地	不透明	-	10R6.5/11.0(濃黄ピノク)	6YR6.5/7.0(穩橙)	+	66.7
露地	透明	アルミ	3YR6.0/11.0(橙)	3YR6.0/11.0(橙)	-	67.4
露地	透明	不織布	3YR6.0/11.0(橙)	6YR6.5/7.0(穩橙)	-	65.6
ハウス	不透明	-	10R6.5/11.0(濃黄ピノク)	6YR6.5/7.0(穩橙)	+	67.0
ハウス	透明	アルミ	3YR6.0/7.0(浅茶)	3YR6.0/7.0(浅茶)	-	66.8
ハウス	透明	不織布	10R6.5/11.0(濃黄ピノク)	6YR6.5/7.0(穩橙)	-	67.0

注1)反射シートのアルミ、不織布はそれぞれアルミ真空蒸着シート、白色不織布を示す。

注2)果皮色は、「日本園芸植物標準色票」による。



写真 1 透明樹脂せいろ(手前)とプラスチックせいろ(写真奥)

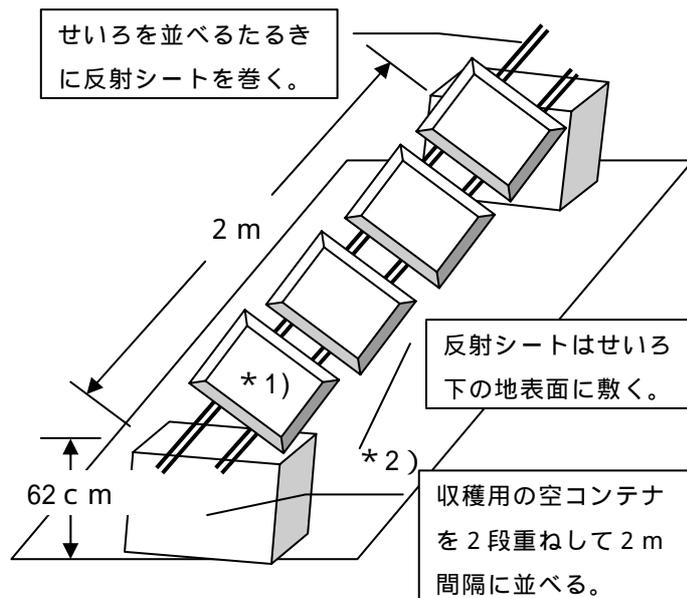


図 1 天日干しの一例(青ウメ 1 t / 10a)

\*1)透明樹脂せいろ 100枚

\*2)反射シート 50m